

会員増強部門

クラブ拡大・会員増強委員会



委員長

今 春淑

十和田八甲RC

2023-24年度 築館ガバナー年度の活動として、各クラブの会員増強委員長さんに会員維持（退会防止）新会員の勧誘を宜しくお願い申し上げます。

RI会長テーマ「CREATE HOPE in the WORLD」（世界に希望を生み出そう）と発表され、築館ガバナーより「和気満堂」を地区スローガンとして提唱されました。地区として重点的に取り組む事として

1. 会員増強（1100～1200）
2. ポリオ根絶
3. D・E・Iの推進
4. My ROTARY を使う

以上4項目を地区目標として掲げられました。地区目標を達成できるように、クラブ拡大、会員増強委員会各グループのガバナー補佐、各クラブの皆様と連携を取り、実行していきます。

クラブ拡大・会員増強委員会は、各クラブの目標の手助け及び地区目標に向けてのクラブから要請がありましたらアドバイザーのPGの指導のもと、地区委員が各グループのクラブで会員増強の卓話を行って参ります。

2830地区は、2025年度までに「会員数1,200人」に達していないと存続出来なくなり、合併になります。地区として存続できる最低ラインがあります。何としても新クラブ結成、会員増強、退会防止が必要です。それによって、クラブの財政や奉仕活動推進のために、大きなプラスになります。

ガバナー公式訪問では、ガバナーより「再びミラクル1200実現」とひとりが一人に声掛け活動の継続を呼び掛けて頂き、グループのガバナー補佐6人方、各クラブ会長、幹事、クラブ会員増強委員方々にも、会員増強を呼び掛けて頂きたいと思ひます。

次年度事業予定として セミナー・会議

5月 クラブ拡大・会員増強委員会

6月 女性会員の集い 八戸プラザホテルにて
（6月11日 アドバイザー佐々木PGのもと行います）

7月 地区会員増強セミナー

11月 地区会員増強セミナー

昨年はコロナ禍の為、会員増強委員会として事業活動が思うように開催できませんでした。築館年度では「奉仕と親睦」「例会出席」を大切にクラブ活動して頂きたいと思ひます。委員会として各クラブの会員増強活動の様子、各クラブの現状を踏まえ、ご意見等お聞かせ頂き、公共イメージ委員会との連携を取り、会員基盤を広げていきたいと思ひます。

目標を達成する為には、2830地区の6グループが一貫となり、そして各クラブの会長、幹事のリーダーのもと、会員皆様からのご協力のご指導をお願い申し上げます。

公共イメージ向上部門

公共イメージ向上委員会



委員長

橋本 八右衛門

八戸RC

ロータリーでは各クラブはもちろんのこと地区全体としても様々な活動をおこなっております。その活動をロータリアン以外に広く発信、紹介することにより、認識、共感してもらい、ロータリーに対して理解を深めてもらう事がこの委員会の最大の役割だと考えます。そして最終的には会員を増やし各クラブのロータリー活動の活性化につなげるよう他地区委員会と協力しながら進めていきたいと考えます。

今期の目標として3つ上げさせていただきます。

①地区公式キャラクター「ロータくん」

今年度はなんとといっても地区イメージキャラクター「ロータくん」を活用です。第2830地区の存在、活動内容をより多くの人にPRするためにインターアクトの皆様のお力を借りて青森県民の皆様へ愛されるキャラクターを作りました。クラブ内外発信文書、SNS上でのシンボルとしての活用、また着ぐるみも作りましたので、地区大会、様々な主催イベントはもちろんのこと、日々の各クラブ奉仕活動、交流活動へも活用を想定しております。

②各クラブロータリアンへの意識付け活動

会員増強委員会と協力し各クラブに訪問、公共イメージ向上及び会員増強の大切さ、そしてクラブの

強化の必要性など卓話にて意識付け、またあわせて地区キャラ「ロータくん」の積極的運用の働きかけもおこなう予定です。

③世界ポリオ・デーでの積極的 PR

ポリオ根絶活動は世界中の人々に最大のインパクトをもたらしているロータリー活動のひとつです。昨年に引き続き世界ポリオ・デーでのイベントも開催予定とのことです。各委員会と協力し「ロータくん」を活用しPRを強化、効果を高めたいと考えております。

社会奉仕・職業奉仕部門

社会奉仕・職業奉仕委員会



委員長

岩岡 隆雄

八戸東RC

これまではコロナ禍の影響もありましたが、クラブ例会も徐々にリアル開催となり社会奉仕活動もいよいよ活発に行動を始める時と感じております。

例会による親睦も深まり地域への社会貢献活動を実行に移し、効果のある奉仕活動を始める年度であると思います。

また、例会プログラムに入れて頂きたい月間があります。

クラブフォーラムの開催があります。10月に社会奉仕月間を、1月には職業奉仕月間をクラブ例会にて開催して頂きたいと思っております。

地区としては、青森大学と教育連携協定による、じょっぱり経済学を継続する予定です

これは大学の学生のみならず、ケーブルテレビでの配信もあり一般の方も聴講する事が出来ます。職業奉仕を経営者みずから伝える事が出来るプログラムです。

今後も継続予定ですので講師を募集して参ります。

この後、南部版経済学の模索を進めて参ります。

地域に人材育成機関があり、その土地で育て雇用が生まれる環境づくりにロータリーの職業奉仕実践があると思います。

また、10月にはポリオ月間もありポリオ撲滅募金活動を推進します。

ご協力をお願いします。

ロータリー財団部門

ロータリー財団委員会



委員長

佐藤 健一

青森RC

1. 活動方針

- ①財団活動レベルの低いクラブを訪問し、財団の役割、必要性の理解を増進し、寄金実績を上げる
- ②全てのクラブにおいて地区補助金事業を実施する
- ③地区又はクラブにおいてグローバル補助金による事業を実施する

2. 具体的行動

- ①地区補助金・グローバル補助金による既活動記録からPR資料を作成する
- ②クラブにおいて、補助金事業実施と寄金推進のPRを図る
- ③各クラブ担当者に対する財団セミナー、補助金管理セミナーを開催する（7月下旬、11月下旬頃）
- ④実施事業に関するメディア、SNSの活用を促進する

3. 小委員会活動

各小委員会はガバナー補佐と連携して各事業の推進を図る

- ①地区補助金委員会
- ②グローバル補助金委員会
- ③資金推進委員会
- ④平和フェロウシップ・奨学金・学友委員会
- ⑤ポリオ対策委員会

ロータリー財団部門

地区補助金委員会



委員長

小田桐 隆夫

むつRC

2830地区には40RCがあります。今年度の地区補助金の申請は33RCで、昨年より5RC増加しました。しかし7RCからの申請がありませんでした。今年度の特徴として幼児、小・中学生、高校生な

ど子供が対象の事業が23RCとなっています。内訳は「一緒に活動する」を10RCが、次にスポーツ大会を8RCが計画している。このような事業は「公共イメージの向上」にも繋がり「社会奉仕」として地域に多大な効果があるのではないのでしょうか。

報道としてTVや新聞等にも取り上げればロータリークラブの広報になりますので各クラブの活性化をお願いします。

- 7月 財団セミナー（前年度の活動報告と23-24年度の計画案の発表）
- 8月 各クラブのプロジェクトを一括で申請（東京事務所）
全てのプロジェクトが承認された後に各RCへ送金
- 12月 財団セミナー（2024-25地区補助金の申請説明）
- 3月 新プロジェクト（2024-25地区補助金締切り）
- 5月 新プロジェクト（2024-25地区補助金審査）
決定

ロータリー財団部門

グローバル補助金委員会



委員長
川崎 益美
八戸北RC

グローバル補助金は、実施国提唱者と援助国提唱者の信頼関係のもとに、ロータリー活動の重点分野に該当し、大規模（3万米ドル以上）で持続可能かつ測定可能な成果をもたらすことが求められます。

提唱者は、それぞれクラブまたは地区になります。そして補助金プロジェクトの提唱者は海外のクラブや地区と協力して取り組まなければなりません。

ロータリー活動の7つの重点分野は下記になります。

- ①基本的教育と識字率向上
- ②地域社会の経済発展
- ③疾病予防と治療
- ④母子の健康
- ⑤平和構築と紛争予防
- ⑥水と衛生
- ⑦環境

2012-13年度から始まりましたグローバル補助金事業ですが、2830地区では、タイの3330地区との地区どうしでの信頼関係のもとにタイへの援助国

として活用してまいりました。これまでの補助金活用プロジェクトは、主にタイ南部地方の水質があまり良くない地域での学校等への浄水器設置事業でした。

コロナ禍の影響もあり、過去3年間はタイの病院への医療器具等の支援もしてまいりました。また、昨年はウクライナへの仮設住宅の支援を日本国内14地区と共同で実施いたしました。さらには、セルビア・ベオグラードの小学校にm Botを寄贈するプロジェクトにも協賛いたしました。

国際的なコロナ禍の緩和とタイ3330地区の地区大会参加の招待もあり、2023年3月15日～20日の日程にて、タイの現地を訪問してグローバル補助金の活用状況を確認してまいりました。

これらを踏まえて、今年度は地区内各クラブにグローバル補助金活用の実態を現地で確認した写真などを活用し広報して、啓蒙活動に取り組んでまいります。

また、これまで10年にわたり取り組んでまいりましたタイとの信頼関係を軸に、さらに可能な限り支援をして「世界で良いことをしよう」というロータリーの目的に沿った活動をしてまいります。

1年間、宜しくお願い致します。

ロータリー財団部門

資金推進委員会



委員長
小林 俊一
青森RC

- 前年同様寄付ゼロクラブがゼロとなるよう取り組んでまいります。ロータリー活動の原点、原資が各寄金です。今年度も会員皆様のご理解とご協力をお願いします。
- 今年度の会員お一人当たりの寄付金目標額は
・年次基金 150ドル ・ポリオプラス 30ドルです。
- ロータリーカードは日々のお支払いが奉仕活動に直結、毎日が奉仕活動となります。本年度は会員のホルダー数減少を食い止めカード利用件数の増加・利用金額の増加に努めます。
- 研修会等でロータリーカード会社の販促ブースを設置、会員皆様のご理解とご協力を喚起します。

- 全クラブの人頭金支払いのロータリーカード利用、一部クラブ経費支払いのカード払いが利用される一年を目指します
- 会長幹事の皆様のロータリーカードホルダー化に協力を求めています
- 財団委員会主導の各クラブ訪問を実施、クラブへ財団の仕組み、寄金の必要性、ロータリーカードの有用性のご理解とご協力を仰いでまいります

ロータリー財団部門

平和フェロシップ・奨学金・学友委員会



委員長
工藤 真人
青森RC

平和フェロシップについては、毎年、ロータリー平和センター提携大学で学ぶ最高130名のフェローが世界中から選ばれ、ロータリーからフェロシップ（全額支給の奨学金）が授与されます。フェロシップには、授業料・入学金の全額、滞在費（宿舎・食費）、往復航空券、インターンシップと実地研修の費用が含まれます。2002年に創設されて以来、ロータリー平和センターは1,400人以上のフェローを輩出してきました。これらのフェローは現在、115カ国以上で活躍し、政府、NGO、軍、教育、法執行機関のほか、国連や世界銀行といった国際機関でリーダーシップを発揮していますが、提携大学院が日本は国際基督教大学その他は海外の4大学に限定されるなど選考条件も厳しい奨学制度です。

グローバル補助金奨学金は、4年制大学を修了した方（または見込みの方）を対象に、ロータリーの重点分野（・平和構築と紛争予防 ・疾病予防と治療 ・水と衛生 ・母子の健康 ・基本的教育と識字率向上 ・地域社会の経済発展）で活動する 未来のリーダーを育成するためのものです。海外に留学を希望する、4年制大学を2年以上修了した方（または見込みの方）を対象に、ロータリー財団の奨学金を提供し、支援しています。本年は、アメリカのロズウェル癌研究所でむつ総合病院の千田ドクターが研究に励んでいます。

地区補助金奨学金は、高校3年生卒業予定者を募集して、大学へ入った際に奨学金を支給する制度です。

平和フェロシップ奨学生、グローバル補助金奨学

生、地区補助金奨学生とも今年度も募集いたします。

次年度は、これらの奨学金の募集要項などのチラシを作成し理解を深めてもらおうと考えております。

また、学友の活躍の報告や連絡網の確立に努力します。

会員の皆様のご協力を宜しくお願い致します。

ロータリー財団部門

ポリオプラス委員会



委員長
森内 忠良
青森RC

築館年度は、田中年度の引き継ぎ案件と共に下記の三案を実施する。

- ①ポリオ活動出前授業
- ②ポリオ活動Tシャツ作成
- ③パキスタンポリオ投与活動

①新世代へポリオプラス活動の意義を周知するために、動画を制作し、それを使用しながら各グループ委員がインターアクトが在籍する高校に出前授業をする計画である。

成田ポリオプラス委員が第2670地区の前田氏（EPNC）が制作された動画を基に制作中である。また出前授業を行うことによって、インターアクトのみでなく、若い人へのポリオプラス活動への興味と参加を呼び込み、活動を広げる。

②ポリオプラス活動用のユニフォームとしてTシャツを作成する。身につけることによって、連帯意識を高め、楽しく活動ができ、他のイベントでも着用できる。デザインは国際標準ポリオプラスカラーの黄色をベースに、青森モーニングRCのデザイナー須藤氏が作成中である。田中ガバナー年度と築館年度のポリオプラス予算を使用し、半額は当地区が援助とする。10月22日の地区大会にはTシャツを着用し、世界ポリオデー（10月24日）を広めるためのウォークラリーを予定している。

③ポリオ常在国は、パキスタン・アフガニスタンの紛争や宗教上の問題で接種が行き届きにくいのが現状である。したがって2023年2月・3月のパキスタンポリオワクチン投与活動の実績を基に、パキスタンポリオプラス委員長アジズ氏、アリ氏に今後も

協力していただき、安全に投与活動を広める。今年度投与活動の予定は、2023年12月・2024年1月・2月である。

現在もロータリーの最優先事項であるポリオ根絶活動は、様々な組織、世界保健機関（WHO）やユニセフ、米国疾病対策センター（CDC）、ビル&メリンダ・ゲイツ財団などと協力し、世界ポリオ根絶推進活動（GPEI）を発足させた。

ロータリークラブが様々な組織を動かす「てこ」であり続けるために、我々の活動意義を改めて会員の皆さまと共有していきたい。

国際奉仕・青少年奉仕部門

国際奉仕委員会



委員長

白山 春男

十和田東RC

今年度は各委員会の国際奉仕に関するサポートと新規の国際奉仕に対する作業に着手したいとおもいます。

国際奉仕・青少年奉仕部門

青少年交換委員会



委員長

岡山 信広

六ヶ所RC

築館ガバナーから拝命し、前年度に引き続き2023-24年度の青少年交換委員会（以下、RYE）委員長を務めさせていただきます六ヶ所RCの岡山です。

ロータリー青少年交流の主な目的は、『海外文化交流の機会、および平和と社会正義を推進するリーダーとして成長する機会を青少年に提供する』ことです。青森県内の15～19歳の学生がこのプログラムを活用して素晴らしい国際人・社会人になることを期待して奉仕したいと考えております。

当地区ロータリアンの皆様におかれましてはプロ

グラムの趣旨をご理解頂き、派遣学生やホストファミリーのご紹介についてご協力を賜ればと存じます。

2022年8月に交換留学生を2名派遣したことをご報告させていただきます。弘前RCがスポンサーで八戸北高校2年生の楠木日向さん、六ヶ所RCがスポンサーでウルスラ高校3年生の橋本芽依さんです。この二人は月次レポートでは充実した留学生生活を過ごしている様子です。

また楠木日向さんとの交換で受入したしたのはアメリカ合衆国7040地区から Quinlyn Tucker REED さんです。日本語の習得に苦勞しているようですが学校でも友人が出来て充実した留学生生活をしている様子です。

加えて、2023-24年度の交換留学生候補は松風塾高校1年生の柴田玲音くんです。スポンサークラブは青森RCです。交換先もアメリカ合衆国が内定しており2024年8月の出国に向けての研修を重ねておりRI2830地区の小さな親善大使として成長しております。

当委員会の役割と活動項目は以下の通りです。

- ①派遣候補学生の募集と選定
- ②派遣候補学生の教育、派遣可否の判断
- ③派遣候補学生とスポンサークラブの引合せ
- ④スポンサークラブが実施するホストファミリー選定・教育の援助
- ⑤交換学生のマッチングと、交換準備から交換終了まで派遣先国窓口との調整
- ⑥県内在住およびRID 2830派遣 ROTEX との関係維持
- ⑦クラブおよび地区委員会委員の教育（YESS、RIJYEM 保険、4D、など）
- ⑧RIJYEM ⇔ RID 2830 ⇔ スポンサークラブの関係維持

ロータリー青少年交換事業は大変素晴らしい事業だと1年強の地区委員会活動で感じております。日本国内最小の当地区で継続できますよう会員皆様のご理解ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

国際奉仕・青少年奉仕部門

インターアクト委員会



委員長
松山 隆志
野辺地RC

例年、インターアクト委員会の活動の大きな柱は①インターアクト年次大会を開催する ②インターアクトの翼を実施する ③ガバナー表彰の実施の3つです。

現在地区内には21のインターアクトクラブが組織されていますが、多くのクラブがコロナ禍の影響によりここ何年か思い通りの活動ができない状態が続いているとのこと。そろそろ以前の状態に近づけ活発な奉仕活動を実現していただくよう委員会としてそのサポートのために鋭意努力していきたいと思えます。

①インターアクト年次大会

地区内21校に組織されたインターアクトクラブのメンバーが一堂に会し、その活動についての情報を報告し合うとともに、寝食も含め共働することによって友情と親睦を深めることを目的とします。例年、各高校の夏休み期間中にホスト校と提唱クラブの協力により特色のある大会を盛大に開催しています。開催時期、開催方法、大会内容などを慎重に検討した上で「開催」に向けて行動したいと思えます。

②インターアクトの翼

高校の冬休み期間を使いインターアクターを海外へ派遣。現地の家庭にホームステイしながら短期間ではありますが異郷での生活を体験、現地高校生との交流によって、その後の人生への糧としてもらう大変有意義な企画です。前年度は、台湾の現地ロータリークラブの多大なる協力により実現。温かく迎入れて頂き、大きな成果をあげています。出発前の不安と期待でおどおどしていた参加者が帰りの飛行機の中では堂々とした顔つきになっているのを目の当たりにすると、是非継続していきたいと思える事業です。関係方面と広く協議の上、継続実施する方向で調整を重ねていきたいと思えます。

③ガバナー表彰の実施

インターアクターの在学中の積極的な奉仕活動に対して卒業時に顕彰を行います。

定例の委員会活動として上記3つを継続実施しますが、今年度は築館ガバナーの指示により次の活動も実施して参ります。

④「ポリオ活動」「Rotary クラブ紹介」出前授業の実施

インターアクトクラブのある高校に出向き、標記テーマに関する出前講座を実施します。

RI が取り組む「ポリオ撲滅運動」を高校生に紹介、若年層のポリオについての認知度向上によりその活動をより活発化させその撲滅実現に寄与することと、ロータリークラブの活動内容等をPRすることにより「Rotary クラブ」に興味・親しみを持っていただき、共に奉仕活動を実践する親しみを持ってもらう事を目的とします。

今年度はさらに各提唱クラブに対し「各校インターアクトクラブへの指導をより推進すること」をお願いしたいと思います。各クラブ毎、それぞれの方法でインターアクトクラブへの関与を進めているとは思いますが、コロナ禍の中、ここ数年奉仕活動等の内容、実施方法等について方向性を見いだせずにいるインターアクトクラブも多いものと推察します。一步踏み込んだ関与によりその一助になれば、より効果的な活動を実行することが出来るものと考えます。各提唱クラブのインターアクト担当の方は、無理のない程度積極的に学校へ足を運び、高校生達と「話」をしてみませんか。

以上、今年度は、アフターコロナを見据え、飛躍の年度となるよう進めていきたいと思えます。

すべてはインターアクターのために……。

国際奉仕・青少年奉仕部門

ローターアクト委員会



委員長
柴田 文彦
むつ中央RC

ローターアクトクラブは、クラブの組織、運営、資金管理等を自ら決定実施することができるようになり、また30歳までの年齢制限が無くなる等によって自立を促し、活気ある変化を期待されています。しかしながら当地区の現状ではコロナ禍の影響で活動の後退化が進んでいます。このことからスポンサークラブからは継続的に力強い支援をお願いしたいと

思います。また、スポンサークラブ、スポンサークラブでないクラブでも奉仕活動実施の際にローターアクトクラブに参加協力を要請し、共に活動していただくことをお願いします。

〈実施予定〉

- スポンサークラブを通して各クラブの実態調査
- 地区ローターアクト委員会設立
- 地区ローターアクト年次大会の実施

国際奉仕・青少年奉仕部門

RYLA委員会



委員長
三浦 基
青森RC

RYLAとは「R」otary「Y」outh「L」eadership「A」wardの略称であり青少年（18～30歳くらいまで）に学びの機会を提供し、その学びについて話し合い、話し合った結果を発表し、それを講評し表彰することでリーダーの素養を醸成するプログラムです。

新型コロナウイルス感染拡大により沼田PG年度は中止・源新PG年度はWEB開催・成田PG年度は中止・田中G年度で復活（この原稿時点ではまだ開催してませんが）します。

2023年6月3日・4日青森市国際交流センターにて40人程度1泊2日での開催となります。

講師（予定）

- 1日目 日本銀行 青森支店 支店長
武藤一郎氏（青森RC）
- 2日目 (有)秀寿司 代表取締役
桑田秀美氏（青森RC）

築館年度では前年度に実践してみたの教訓を生かしブラッシュアップさせ、1泊2日での開催に変更はなしですが、開催場所・テーマ・講師について委員会で話し合い実行いたします。

7月の年度初めの段階では地区内6グループ全てから委員を輩出いただいている予定ですので委員会の打合せについてはZOOMを使用しながら無駄な移動が無い様に心がけます。

花田年度ではRYLAの委員長を別の方になっている予定ですので、委員の皆様・地区内青少年奉仕系委員の皆様は「次年度は私が委員長かもしれない」

の気持ちを持ち続けていただきますようお願い申し上げます。

現在決定しているのは開催日程のみで、2024年6月8日(土)・9日(日)を予定してございますので、皆様におかれましてはスケジュールを空けておいていただきますようお願い申し上げます。

米山記念奨学部門

米山記念奨学委員会



委員長
野坂 幸子
野辺地RC

米山記念奨学事業の使命

将来、日本と世界とを結ぶ「懸け橋」となって国際社会で活躍し、ロータリー運動の良き理解者となる人材を育成することです。これは、ロータリーの目指す平和と国際理解の推進そのものです。

日本のロータリー全地区による国際奉仕事業です。

1. 寄付金について

◎特別寄付は、一人2万円以上を目標額としてお願い致します。

◎普通寄付一人3千円以上を目標額としましたクラブ会費からお願い致します。

◎地区としては、寄付金ゼロクラブを無くするように呼び掛けていきます。

2. 米山奨学生について

◎2023年度は、優秀な13名の奨学生のお世話を致します。新奨学生は12名です。初めて八戸学院大学からと久しぶりに北里大学からの奨学生がおりますので広い地域と多くの会員の皆様にお世話になります。

3. 米山奨学生との交流について

◎奨学生とロータリアンの交流は、世話クラブの例会や行事に出席して、カウンセラー様が相談役となりスムーズに行われています。

◎他のクラブとの交流は、卓話訪問を通して交流を図る事が出来ますので卓話の申込を宜しくお願い致します。

◎奨学生は、地区大会等の地区行事やクラブを通してグループ等の奉仕活動交流へも参加しますのでご連絡下さい。

4. 優秀な人材の選考について

◎指定校より優秀な留学生を推薦して頂きます。

◎提出されて書類審査と面接選考で決定します。

5. 主な行事

5月27日(土) 卓話講習会

12月2日(土) 奨学生面接選考試験

3月2日(土) 米山奨学生修了式

4月6日(土) 新米山奨学生とカウンセラーオリエンテーション

次年度活動計画は以下の通りです。

1. RLI の開催 (1泊2日の集中研修)

2. リアルと ZOOM でのハイブリッド研修

3. ディスカッションリーダーバンクの充実 (地区グループのバランスを考慮)

4. ディスカッションリーダーの資質向上、レベルアップを目指し年数回の研修会の開催

5. 地区認定 DL の増大

6. グループ毎に RLI 出張講座の開催

RLI 委員会は皆様クラブの益々の発展、活性化の為、精一杯お手伝いする所存でございますので、多数の参加を宜しくお願い申し上げます。

ロータリー・リーダー・シップ研究会

RLI委員会



委員長

米谷 恵司

青森モーニングRC

RLI 委員会委員長を5年連続で拝命致します青森モーニングロータリークラブ所属の米谷恵司です。

RLI (Rotary Leadership Institute) はロータリーリーダーシップ研究会の略語で、1992年アメリカ、ニュージャージー州の元 RI 理事デビット・リンネット氏の発案で始められました。そして現在は全世界110ヶ国、約300近い地区にロータリーの研究、研修組織として発展しております。また、我が地区は RLI の先進地区となっており、山崎パストガバナーは RLI 日本支部地区支援チームサブリーダー、源新パストガバナーは RLI 地区代表委員としてご活躍されており、沢山のご指導をいただいております。

RLI の研修は予め決められたテーマのもと皆様に自由に意見を出し合うスタイルで行われます。そしてディスカッションリーダー (DL) は進行役として質問を投げかけながら参加者の自発的な考えや意見を引き出していきます。参加者は解答を求めるのではなく、テーマに対する参加者の発言を聞き、自分自身の解答や方向性を見出す研修になっています。この手法はロータリークラブの将来展望を考えるにあたり、クラブを牽引するリーダーの育成、そしてクラブの継続性、刷新性、活性化を図るうえで最も重要な事だと考えます。その為にはロータリアン各自のスキルアップが必要不可欠です。それを実現する為是非とも RLI を活用して頂きたいと考えております。